

かしま

HOT 通信

7月号 Vol.330

令和2年(2020年)7月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
 ■発行/社団法人養生会
 〒971-8143
 福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
 tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
 上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
 かしま病院広報企画室(江坂 苑)まで
 r-esaka@kashima.jp

ホームページ <http://www.kashima.jp>

かしま病院

検索



スマートフォンをご利用の方は、
 QRコードを読み取り、アクセスしてください。
 PCサイトと同じ内容をご覧頂けます。



1
2

巻頭特集

「かしま病院の給食ができるまで
 ～栄養課の紹介～」

3

「受動喫煙防止活動
 「イエローグリーン・ライトアップ運動」
 への参加」

コラム ひんがら目(157)
 「体温測定
 無症状の感染者もいるのに体温を測る意味は？」
 呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!
 リハビリPOST
 イベント開催予定のお知らせ
 かしま荘通信

看護学生 Internship

インターンシップ 開催!!

参加者
 募集!!

かしま病院の看護を体験してみませんか?

日時 **第1回** 2020年 **8月8日(土)** 9:00～12:15
 ★申込締切: 7/31 (金) 必着

第2回 2020年 **9月4日(金)** 9:00～12:15
 ★申込締切: 8/25 (火) 必着

定員 **各日8名** (定員を超えた場合は、先着順とさせていただきます)

プログラム 病院概要説明、職場体験、先輩看護師との懇親会

申し込み方法: ホームページから申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、
 郵送またはFAXにてお申込みください。

ご不明な点やご質問などがございましたら、お問い合わせください。
 看護部インターンシップ担当 TEL:0246-58-8010

巻頭特集

かしま病院の給食ができるまで ～栄養課の紹介～



右の図が、病院給食の一連の流れです。国の基準に基づき、食材の受入れから食事の提供、さらには調理終了後の洗浄・消毒も含めてさまざまな管理項目を徹底しています。
 各過程を経て、病棟の患者さまへ栄養給食が提供されます。
 また病院給食は医療の一環として提供されています。それぞれの患者さまの病状に応じた、適切な食事提供と栄養管理により治療効果が期待できます。



▲自立で食べている様子



▲食事介助している様子

次のページより、給食の各工程を紹介します。

2に続く

給食が出来上がるまでの流れです。

スタート

食材の受入

下処理

調理

盛付

病棟へ配送

食事の提供

洗浄・消毒

できあがるまでの概要

かしま病院では、1階に厨房施設が設置されています。管理部署の栄養課は管理栄養士8名、栄養士3名、調理師4名、調理員8名計23名のスタッフで構成されています。食数は1日約500食、月にすると15,000食の食事を提供しています。2017年9月より給食部門を直営化してからもうすぐ3年が経過します。今回は普段見ることが出来ない「かしま病院の給食ができるまで」を特集します。ぜひご覧ください。

下処理、調理、盛付(ハヤシライスができるまで)

3

工程ごとのシーン



食事は普通食に限らず、患者さんの病状にあわせた提供が可能です。料理の種類や食材を刻む大きさ、分量、主食の量などを変えて対応出来ます。また、パン・麺類などの主食の変更も可能です。病状によって禁止となる食品や料理があるため、医師の指示を遵守し調理を行います。急な入院などにも食事の提供ができるようになっています。



メニュー作成

1



「日本人の食事摂取基準(厚生労働省)」に基づき、メニューが作成されます。

温冷配膳車での配送

4



▲配膳車へ格納時チェック

患者さまに適切な温度での食事を提供できるよう温冷配膳車を採用しています。温かいメニュー、冷たいメニューそれぞれ適温での食事が可能です。かしま病院の病床数は、病棟と介護施設を含めると計 212 床です。さまざまな病状と嗜好に合わせた給食を提供しているため、給食の内容は何通りにもなります。誤配膳を防止するため、温冷配膳車への格納や患者さまへ配膳の時は、細心の注意を払います。

検品の様子

2



検品は、業者さんとスタッフ1名が立ち合いし品質・鮮度・異物の混入等が無いことを確認します。写真は、品物の温度が高い場合、食材の品質に影響が出るため、食品温度計で確認している様子です。検品後、食材をそのまま厨房内に持ち込まず、専用容器に移し替えて冷蔵庫等に運搬します。

食器・器具類洗浄

5



洗浄は、食器類分別作業 → 食器洗浄機での洗浄 → 高温消毒の順で行います。スタッフが作業を分担し、約 1 時間強で完了します。洗い残しがないか注視しながら、作業が行われます。

◀洗浄の様子

衛生管理

生鮮食品の鮮度劣化と調味料の品質低下を防止するため、冷蔵庫、冷凍庫内の温度管理を徹底しています。又、使用できるまな板や包丁を食材ごとに色分けし区分されています。開封後の使用期限も見やすく掲示されていて、衛生管理が徹底できるように工夫がされています。



掲示の様子

栄養課の取り組み

給食調整会議

毎月一回、給食調整会議を実施しています。参加者は栄養課責任者をはじめ管理栄養士、栄養士、調理師と食材関連の業者さんが参加します。栄養給食のスタッフが顔を合わせ意見交換ができる、唯一の機会となります。

会議では、患者さまに提供された給食内容の評価や検討を行います。調理していく順番、食材解凍のタイミングや盛付方法など、調

理する工程で挙げた課題について、率直な意見交換が行われます。また業者さんより新商品食材の提案が行われ、栄養課スタッフが試食をします。試食後、業者さんに試食した感想を正直に伝えま。食材の味や食感のよさ、調理に係る所要時間、他メニューとの相性などを踏まえ、献立に採用します。



▲給食調整会議



▲栄養課スタッフ



▲昨年7月の行事食(土用の丑の日)

品名	開封後からの使用期限	備考
豆腐類	24時間	冷蔵保存
調味料・食料料	3ヶ月	常温保存 (10℃以下)
ふりかけ類	12ヶ月	常温保存 (10℃以下)
液体油類	3ヶ月	常温保存 (10℃以下)
生鮮食品類	1ヶ月	冷蔵保存 (10℃以下)
生肉類	24時間	冷蔵保存 (10℃以下)
生魚類	24時間	冷蔵保存 (10℃以下)
生野菜類	24時間	冷蔵保存 (10℃以下)
生果物・野菜類 (洗済は除く)	1日	冷蔵保存 (10℃以下)
冷凍食品 (解凍しないもの)	12ヶ月	冷凍保存 (-18℃以下)
冷凍食品 (解凍済み)	24時間	冷蔵保存



受動喫煙防止活動

「イエローグリーン・ライトアップ運動」への参加

かしま病院での禁煙の取り組みについて

5月31日の「世界禁煙デー」と、5月31日から6月6日までの「禁煙週間」に当院では病院玄関前の樹木をイエローグリーンにライトアップを行いました。イエローグリーンの色は受動喫煙をしたくない・させたくないという意味をあらわしています。

今月号では当院の禁煙の取り組みについて紹介します。

禁煙外来

毎週火曜日に、喫煙者の禁煙をサポートする禁煙外来を実施しています。診察は予約制で、相談も受け付けております。お電話にてお問い合わせください。

敷地内全面禁煙

平成19年9月1日より敷地内全面禁煙としています。建物内のみならず、玄関や駐車場を含む病院の敷地内全域が禁煙です。

毎月22日は「かしま病院禁煙の日」

禁煙の日である毎月22日を、「かしま病院禁煙の日」としています。毎月22日は敷地内禁煙だけでなく院外でも完全禁煙を目標に、院内放送などで働きかけています。

※22日は、「22」を白鳥(スワン)が2羽寄り添う姿から、スワンスワン(吸わん吸わん)の日とされています。(禁煙推進学術ネットワークより)



「禁煙の日」ポスター

体温測定 無症状の感染者もいるのに 体温を測る意味は?

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言以後、出勤時毎朝体温測定をされています。看護学校へ講義に行くとき最初に額の温度を測定されます。行きつけの歯医者さんでも体温計を渡されます。10秒程度でピピッと音がして結果が表示されますので簡単ですが、測定するたびに若干の違いがあります。4、5回測定し、すべてが一致した事は一度もありません。体温が時々刻々変化しているのか、測定誤差なのか、どちらかは定かではありません。

今回の新型コロナウイルス感染症でも水際作戦は成功しませんでした。蔓延期になった水際作戦などは意味がありません。だとすると、今、何のために体温測定しているのか疑問が湧きます。決まりごとには違反するわけにも行きませんが毎日体温測定はしています。しかし、殆んど意義を感じません。しかし、異議を唱えるのも憚られるので情性で従っています。



テレビでお目にかかる感染症の専門家は皆、マスクと手洗い、ソーシャルディスタンスを金科玉条の如く耳が痛くなる程訴え、コロナウイルスの怖さを強調するばかりです。第2波の怖さを煽っています。無症状の人でも感染者はおり、他者に感染させるかもしれないので注意してくださいと言います。それって全員が容疑者であるということでしょう。

測定は水銀体温計で測りました。手で振って水銀を根元に戻してから腋の下に差し込み、十分に時間を掛けて体温で水銀が膨張するのを待ってから目盛りを確かめました。時間が掛かるのでたいてい1回きりの測定でした。子供の頃は体温測定が健康と病気の鑑別でした。熱っぽいのに37℃に達していないと、早すぎたと反省し、もう一度腋の下に戻して測り直します。再検すると38℃ぐらいになっていました。何度か腋の下で繰り返しても上昇しないときに真の体温だと判断しました。高熱でなければ感染症ではないと判断しました。

輸入感染症の水際作戦では有病者を隔離することが重要であり、有病者のチェックは体温を参考にしました。有病者の必要条件是高熱でした。つまり、熱がなければ有病者ではないということが大前提でした。発熱者の大半は輸入感染症者ではありませんが、ひとりでも感染者を入国させたら大変ですから、発熱者は全員が容疑者とされ疑いが晴れるまで隔離されました。これが水際作戦です。過去の水際作戦は成功しませんでした。

中途半端なマスクや手洗いで感染者が出ていない時期と、厳密に感染対策を取っていても感染者が多発している時期では、対策は変えていくべきでしょう。そのためには、専門家は、時々刻々の変化に対して適切に指示を出すことが大切です。恐怖だけを煽る専門家は有害です。

一方、適切な専門家の指示には厳密に従う国民の自覚と実行力も重要です。専門家と国民の信頼関係が築かれていない状態をパニックと呼ぶのでしょうか。そこに、政治家の選挙への思惑と、感染対策ビジネスの私利私欲が絡んでくると混乱は深まります。感染症と社会生活とのバランスが問われています。

(呼吸器科 部長 山根喜男)

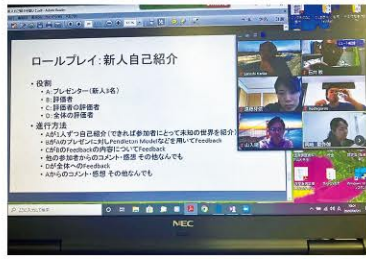


ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医療への挑戦～

第125回 新人の自己紹介を聴いて指導能力を拓こう!

診療部 石井 敦



福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座の月例勉強会「家庭医療レジデント・フォーラム」は県内各地の教育拠点持ち回りで開催されています。2020年6月の当番幹事は かしま病院で

した。いつもは病院の会議室に集ってワイワイガヤガヤ賑やかに語らうのですが、今回は新型コロナウイルス感染拡大抑制のために、インターネットを用いたリモート開催となりました。診療・教育を県内各地の医療機関に分かれて行なっている当講座は、日常のカンファレンスやミーティングを TV 会議システムを活用して行っています。そういう意味でリモート勉強会はもともと慣れているわけですが、だからこそ、講座のメンバーらが月一回一堂に会して直接会えるのをとても楽しみにしていますし、本来ならいわき観光を兼ねて皆さんにいわきの風土を楽しんでいただきたかったのでとても残念でした。

今回のテーマは「指導医の発展」でした。リモート開催でも出来る限り楽しく学んでもらうにはどうしたらよいかを、無い知

恵絞って準備しました。新型コロナの影響で、新人歓迎会すら疎かになっている状況を逆にとり、講座のメンバーへの自己紹介を兼ねて、新入りメンバーには自由な形式で、自由な内容（できれば講座のメンバーにとって未知なる世界）を、自己アピールするプレゼンテーションをしてもらいました。次に、指導医がその内容に対してフィードバック（フィードバックについての詳細は本連載先月号をご参照ください）します。自己紹介にフィードバックするという状況自体が斬新かもしれませんが、今回のセッションはそれにとどまらず、更に指導医のフィードバックの手法・内容に対して、別の指導医がフィードバックし、次にその他の参加者や、最上級指導医（主任教授）から自由にコメントをもらう形式で進めました。

新人のプレゼンの内容が、絵画・旅行・グルメと、いずれも参加者の興味を引く内容であったことも手伝ってか?和やかな雰囲気ながら活発な議論が展開する良い学びの機会が創出されたように感じました。フィードバックを担当した指導医陣も、各々次のステップへの具体的な方略を見出させていたことが何より嬉しかったです。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



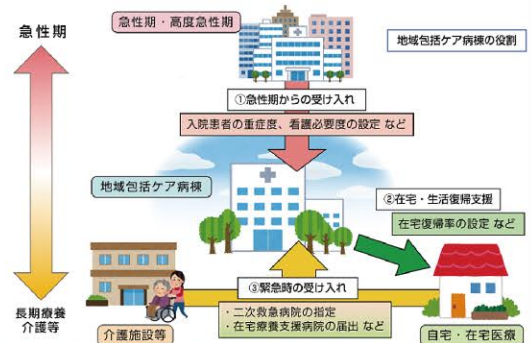
地域包括ケア病棟について

先月号では、急性期病棟についてご紹介させて頂きました。今月号では地域包括ケア病棟についてご説明させて頂きます。当院では西2、西3階の病棟が地域包括ケア病棟です。この病棟の特徴としては「ポストアキュート」と「サブアキュート」と呼ばれる二つの機能があります。まず「ポストアキュート」とは急性期での治療終了後も引き続き入院を必要とする患者様に対し医療を提供する機能です。「サブアキュート」とは急性期病棟に入院する医療は必要としないが、在宅や介護施設等において悪化した患者様に対し必要な医療を提供するという機能です。従って、地域包括ケア病棟には急性期病棟での治療が終わった方と、家や施設で体調が悪化した方が入院して療養を受けております。医療内容としては、診療や看護、リハビリテーション、退院調整などが挙げられ、

入院期間の限度は二カ月間と国で定められており、この間に在宅が施設に戻る為の準備をする事となっています。また、回復期リハビリテーション病棟に入院する場合は、脳血管疾患・整形疾患などの急性期治療後の患者様が条件となっていますが、地域包括ケア病棟では、病名に関わらず入院可能で、患者さまの病状に応じて包括的にリハビリテーションを提供して行くのも特徴の一つです。

来月号は、当院の療養病棟である介護医療院についてご紹介していきます。

言語聴覚士 渡邊 正太



かしま荘通信

「第38回かしま福祉まつり」中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症による影響で全国的にイベントが中止となっております。

かしま福祉まつりに関しましても、関係各所との協議の結果、安全・安心を確保することが難しいことから今年度の開催を中止させていただきますこととなりました。

毎年楽しみにして下さっている方には大変申し訳ございません。



イベント開催予定のお知らせ

● 家庭医療セミナー ～実践家庭医塾～

日時 7月30日(木) 19:00~20:00
会場 かしま病院コミュニティホール



● 認定看護師による勉強会 9月より開催を予定しています。



※以前の勉強会の様子